



第1章

阿武隈川サミットのあゆみ

(1) 阿武隈川サミットの概要

阿武隈川サミット開催までの経緯

近年の都市化により、阿武隈川は家庭排水、工場排水による水質の悪化、洪水時のゴミの流下等の問題を抱え、治水、利水、そして水質を含む河川環境の保全が重要な課題となっていました。これらの問題に対処するためには、阿武隈川流域の自治体が一体となって、その対策に取り組むことが緊急な課題であることから、福島市がサミットの開催を提唱しました。

平成6年、阿武隈川流域自治体の賛同と、建設省東北地方建設局(当時)、福島工事事務所(当時)及び福島県の指導、協力により第1回阿武隈川サミットの開催が実現しました。

阿武隈川サミットの目的

母なる川、阿武隈川をよく知り川との共生を目指しながら、流域それぞれの実態に即した治水・利水計画との調和を図り、河川環境の保全を推進するため、福島県・宮城県内の阿武隈川沿いの29自治体(発足当初)が一堂に会し、それぞれの流域での役割を担いながら、次世代に共通の遺産として良好な河川環境を伝えていくことを目的に、サミットを開催するものです。

阿武隈川サミットの組織

発足当初は、阿武隈川が流れる福島県 5市12町7村、宮城県 2市3町の29自治体で構成されていましたが、その後の市町村合併により、現在は、福島県 7市5町5村、宮城県 2市3町の22自治体とオブザーバー、アドバイザーで構成され、活動しています。



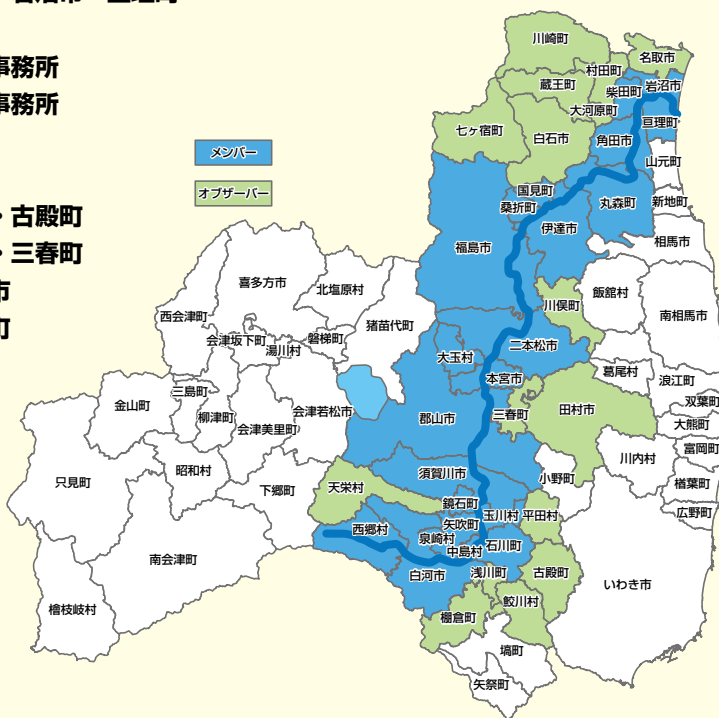
西郷村・白河市・泉崎村・中島村・石川町・玉川村・矢吹町・鏡石町・須賀川市
郡山市・本宮市・大玉村・二本松市・福島市・伊達市・桑折町・国見町
丸森町・角田市・柴田町・岩沼市・亶理町



国土交通省福島河川国道事務所
国土交通省仙台河川国道事務所
福島県・宮城県



棚倉町・鮫川村・浅川町・古殿町
平田村・天栄村・田村市・三春町
川俣町・七ヶ宿町・白石市
大河原町・川崎町・蔵王町
村田町・名取市



(2) 阿武隈川サミットの経過

第1回阿武隈川サミット (平成6年10月21日)

第1回阿武隈川サミットは、平成6年10月21日に阿武隈川流域の福島県内24市町村長が一同に会し、開催されました。各市町村における阿武隈川の現状と課題について意見交換し、上・中・下流それぞれの抱える問題が明らかにされました。

そして、本サミットの重要性や、その役割・期待が各市町村長から述べられ、本サミットの基本理念となる治水・利水・河川環境保全の3つを柱とする共同声明が採択されました。本サミットにオブザーバーとして参加した宮城県内の2市3町については、第2回サミットからメンバーとして参加することになりました。



第2回阿武隈川サミット (平成7年11月24日)

第2回阿武隈川サミットから、福島・宮城両県の阿武隈川流域の29市町村により構成する阿武隈川サミット実行委員会が開催することになり、平成7年11月24日に福島市で開催されました。第2回サミットでは、「母なる川、阿武隈川との共生をめざして」をメインテーマに、治水・利水分科会、河川環境保全分科会の2つの分科会に29市町村が分かれ、積極的な意見交換を行い、今後流域自治体が一体となって何を成すべきか、その具体的な方向性を探りました。その結果、「交流」を基本とする共同声明と具体的な行動計画が採択されると同時に、阿武隈川流域に暮らす約140万人共通の心のよりどころとなる、愛唱歌の制作が提唱されました。なお、阿武隈川流域26市町村については、オブザーバーとしての参加をお願いしました。



第3回阿武隈川サミット (平成8年10月19日)



第1回サミットで採択した3つの基本理念について、またその具現化のために第2回サミットで採択された流域内の「交流」を更に推し進めるために、流域自治体が成すべき方途について意見を交換しました。その結果、自治体のみならず住民相互の理解のもと、流域が一体となって基本理念を実現するために、今すぐできる取り組みを今後も継続していくと同時に、長期的視野に立って、流域住民が一丸となって行動していくためのよりどころとなる行動計画づくりが必要であるとの共通認識をし、阿武隈川流域に暮らす人々の「連携」を基本とした共同声明を採択しました。また、愛唱歌「あぶくま川の詩」制作発表の「小椋 桂コンサート」が開催されました。

第4回阿武隈川サミット (平成9年10月2日)

これまでは、主に行政側での課題と問題点が認識されてきましたが、このサミットでは、上・中・下流に暮らす住民の阿武隈川についての考え方を共通理解しながら、行政と住民が連携を持って成すべき事は何かを確認し、今後における実践活動をしていくために、文化交流、全域活動、住民啓発の3つの分科会に分かれて意見交換を行いました。その結果、自然環境の保全と創造、社会・教育活動、豊かな地域づくりなど、あらゆる事象において川が最も重要な構成要素であるということを改めて認識し、流域に暮らす人々がより一層連携を強めて行動していくことを確認しました。これに基づき、自治体と住民が相互に連携と交流を深め、阿武隈川を基軸とした地域づくりに「流域一丸」となって取り組んでいくことを基本とした共同声明を採択しました。

第5回阿武隈川サミット (平成10年10月27日)

このサミットでは、福島県南部から栃木県北部を中心に、平成10年8月末から降り始めた観測史上まれに見る集中豪雨により、特に阿武隈川の無堤部の至る所で氾濫し、流域にも甚大な被害をもたらしたことから、「住民の安全対策と災害時の流域連携」をテーマに公開討議を行いました。その結果、自然の猛威を知らされた今回、大きな被害を受けた地区を中心に堤防など整備と併せ、被害を最小限に食い止めるためのソフト面の対策や、構造的に水害に強いまちづくりを推進していくことが重要であることを確認しました。これに基づき、国・県との連携のもと、治水対策と流域の安全について流域が一体となって推進するために、専門的な組織づくりを図ると同時に、自治体と住民が一体となった対策づくりを基調とした共同声明を採択しました。また、前回サミットの共同声明事業として提案された「阿武隈川との共生憲章」を決議しました。



阿武隈川との共生憲章

阿武隈川の豊かな流れは、母なる川として流域をうるおし、歴史と文化を刻みながら郷土を育んでいます。

わたしたちは、この阿武隈川を清く美しく保ち、より安全で親しみやすい川として大切にしていかなければなりません。

このため、わたしたち一人ひとりがそれぞれの立場で、よりよい河川環境づくりを目指して、流域一丸となって行動し、わたしたち自身のため、また次世代に引き継いでいくために共生憲章を定めます。

また、わたしたちが阿武隈川と共に生き、心をつなぐため、毎年11月1日を「阿武隈川の日」と定めます。

- 一、情報交換をとおし、結びつきを強めながら、川の良さや大切さを知りましょう
- 一、自然との調和を図り、人や動植物にやさしい、河川環境づくりを進めましょう
- 一、清らかな流れを守るため、流域みんなの力で、川をきれいにしましょう
- 一、人と川とのふれあいを進め、川への、思いやりの心を育みましょう
- 一、川の歴史と文化に学び、新たな、水文化を創造しましょう

阿武隈川サミット実行委員会

第6回阿武隈川サミット (平成11年10月20日)



阿武隈川サミットマスコット「あぶたん」

第5回サミットで決議された「阿武隈川との共生憲章」の具現化に向けて、「人や動植物にやさしい 河川環境づくり」「流域みんなの力で 川をきれいに」をテーマに意見交換を行いました。建設省の阿武隈川大改修事業でも、環境に配慮した工法を取り入れ、工事にかかる前よりも自然が豊かになったと言われるような川づくりを目指しており、各自治体でも、川との付き合い方や思いやりの心を先人たちの暮らしから学び、次の世代の子供たちに川の良さ・大切さを教えていかなければならないことを再認識し、積極的に取り組んで行くことを確認しました。前回サミットで発表されたキャラクターに、阿武隈川サミットマスコットとして「あぶたん」の名称がつけられました。

第7回阿武隈川サミット (平成12年11月7日)

「阿武隈川との共生憲章」の理念のもと、阿武隈川水系55市町村が「阿武隈川流域2000年宣言」を発表し、21世紀に向けて流域住民の共通の財産である阿武隈川を保全していくため、行政、住民がどのように役割を担い、行動していくかを確認しました。また、阿武隈川水質マップ、阿武隈川サイクリングロードマップの作成と水防関連情報の集約をし、各市町村に配布しました。



第8回阿武隈川サミット (平成13年10月25日)

国土交通省発表データにより阿武隈川が水質ワースト1になったことを受けて「東北直轄11河川水質ワースト1からの脱出」をテーマに、阿武隈川の水質を改善するための対策について議論しました。理念から行動へとの討議のなかで、①河川の現状認識と人材育成を目的とした事業を行う、②流域一体となった活動を行う、③日常的な生活排水対策事業に取り組むことを行動決議しました。